

氏名	天 野 正 道
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 878 号
学位授与の日付	昭和52年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	尿路感染症における白血球機能(特に腎盂腎炎について) 第1報 Skin Window法による白血球の遊走能と貪食能 第2報 人白血球貪食能に及ぼす化学療法剤の影響について 第3報 人白血球菌能に及ぼす化学療法剤の影響について
論文審査委員	教授 木村郁郎 教授 大藤 眞 教授 田中早苗

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

尿路感染症の病因，治療を検討する上でHost-Parasite-Drugの関係を常に考慮する必要がある。Hostの感染防御機構より白血球機能を取り上げ，病因として白血球機能不全症の有無，感染時の白血球機能の変動を明らかにすると共に，化学療法剤の白血球機能への影響を検討した。

白血球機能は，遊走能，貪食能，殺菌能と分けられるが，Skin Window法により遊走能と墨汁貪食能をin vivoで，細菌貪食能と殺菌能をin vitroで検討した。

結果は，病因として白血球機能不全が考えられる症例はなく，感染時，遊走能，貪食能，殺菌能共に亢進し感染を防御する方向に働いていた。化学療法剤の白血球機能への影響は，細菌貪食能と殺菌能について，10薬剤について正常人を対照として腎盂腎炎症例で実施した。約半数の薬剤で白血球機能低下を認め，生体の本来有する感染防御機構への薬剤の影響を考慮して使用されるべきと考える。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は尿路感染症における白血球機能について実験的ならびに臨床的に研究したものであるが，従来十分確立されていなかった化学療法剤使用時の白血球機能について，とくに宿主防御能の立場から重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位をうる資格があると認める。